「令和５年度 学生 FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書」の掲載について

日本大学では,FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく,平成 25 年度より,16 学部 95 学科,短期大学部 4 学科,通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生 FD や本学の教育について理解を深め,気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生 FD CHAmmiT(ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており,例年,各学部等から 200 名以上の参加者を得て開催しております。令和 2 年度及び令和 3 年度においては,コロナ禍の影響により,オンライン(Zoom)開催いたしました。

第 11 回目となる令和 5 年度においては,4 年ぶりに完全対面方式で実施しました。「あなたにとって大学とは何ですか」という昨年度のテーマを踏襲した上で,ChatGPT などの新しい技術が登場したアフターコロナの今だからこそ,大学で学ぶ意義等を話し合い,自身が思い描いた大学生活の理想と現実のギャップについて,意見を出し合いました。それらを踏まえ,最終的に「理想の学部にするための提案」「日大教育の未来のビジョン」を提案書として作成しました。学生からの提案を受けて,効果的な教育改善の実現に繋がるよう,芸術学部において学生との協議の場を設け,学生・教員・職員の三者で協議した上で「学生への回答書」を作成いたしましたので,御覧いただきますようお願いいたします。

今後も芸術学部では,教育の質や改善について検討を重ね,より良い教育環境づくりに努めていきます。

（参考）

「日本大学学生 FD CHAmmiT」って何？

http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fd/fd-chammit/

以　上

【芸術学部】

令和５年度学生FD CHAmmiT学部提案書に基づく学生への回答書

１　学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和５年１２月７日（木）	CHAmmiT参加者（教職員）及び学生スタッフ，FD委員，教務課員等の計９名が 対面形式にて１時間程度，改善内容に関する意見交換を実施した。 **【学部提案書作成ミーティング出席者一覧】** 教　　員　FD委員会委員長　吉野大輔　FD委員会副委員長　大寺雅子 職　　員　教務課　井上健策　教務課　伊藤　翼　図書館事務課　飯窪力斗 学　　生　音楽学科　小鷹狩綾乃　美術学科　髙平悠花　文芸学科　新谷栄茉 芸術研究科造形芸術専攻　小林紗己　（計９名） その他，当日参加が出来なかった学生に関しては，事前にメールにて改善に資する意見や協議してほしい内容を聴取の上，全体で共有済。

２　芸術学部から学生へのメッセージ

令和５年度学生FD CHAmmiTに参加した皆さんには，芸術学部の改善に主体的かつ積極的に取り組んでいただき，改めて御礼申し上げます。芸術学部を理想の学部にするための提案を受け，FD委員長以下教職員が感じた点が，より具体的で実効性の高い提案をいただいたという点です。昨年度の学生CHAmmiTでも学部宛に提言され，学内の各種アンケート調査等においても多数の要望を受けていた「他学科との授業交流が不十分で，他学科交流が可能な授業をより多く設置してほしい。」という提案に対して，芸術学部では多くの教職員が検討に関わり，近年特に力を注いできた「社会連携事業」を１年間で「連携型プロジェクトⅠ」として授業化するに至りました。この科目はまさに８学科すべての学生が，自身の専門性を用いて社会の実課題の解決に取り組む科目で，専門領域を横断する側面と芸術の社会実装を兼ね備えた，全く新しい科目になりました。この科目の選抜（セレクション）には，300名もの学生がエントリーし，本科目の注目度の高さが伺えました。同時に本科目は過去に前例のない，新しい試みであるが故に，開講１年目は，教職員も試行錯誤で授業運営を行い，学生からも非常に有意義な意見をいただきました。現在は次年度に向けてより良い授業運営を行うための検証・設計・準備を進めています。本年度の芸術学部の提案書に関しては，この科目名を取り上げた内容が記載されていますが，「理想の学部にするための提案」としても重要な内容と捉えております。その他の提案項目に関しても，充分に現状分析された内容が多く，また継続的に抱えている課題に対しての提案も成されており，これらを真剣に検討していく必要を感じています。今回の回答書作成には，学生FD CHAmmiT参加学生に大学院生，教職員を加え，現実的で実効性のある意見交換を行うことが出来ました。協議の場を通じて「日藝」は，「芸術分野の学修を通じて，多様な価値観を融合し，イノベーティブな思考で課題を解決できることが大きな魅力」であることを共有することができ，学生と協働でより魅力的な日本大学芸術学部を作って行きたい，と教職員一同改めて強く感じています。

３　学部提案書の対応について

学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
授業に関する事項 ・連携プロジェクトにおいて，教員の意図するものを学生が作るという構図にならないような決まりを設けてほしい。 ・連携プロジェクトの活動の安全性を見直し，保険などの補償面については学生に説明をしてほしい。（身の危険を感じるような撮影があった） ・連携プロジェクトの学生の活動の負担を減らすか，単位数を増やしてほしい。	○			「連携型プロジェクト」に関しては，芸術学部としても新しい試みで，令和５年度が開講初年度となったため，担当教員間で授業を運営しながら試行錯誤で進める側面もありました。これらを補い，学生の意見を即効性のある形で授業改善に直結させるため，授業内でリアクションペーパーを用い，履修者からの意見を集約したところ，今回のミーティングで指摘が上がったように「教員の主導の内容，成果物指導が主体でなく，学生の自主性，創造性を引き出す授業設計・内容にしてほしい」という要望がとても多かったです。そのため次年度以降の開講に関しては，すでに科目の代表教員を中心に令和６年度担当予定教員間で科目の検証を綿密に行い，本年度の反省点を改善すべく，現在新たな授業計画案を作成しています。そのため授業進行上の諸注意や安全管理面も含め，全体的な改善が成される可能性が高い状況です。単位数に関しては，学則上の設定があるため，変更には学則改正が必要となることから，現実的には単位数相当の時間数に応じた適切な授業設計を行うことで，学生の負担軽減及び単位数の適正化を進めています。授業の基本的な設計や機会提供などは教職員が全力で進めますので，学生の皆さんはこの「連携型プロジェクト」の学びの場を最大限に生かして，自身の成長に生かしていただきたいです。

【芸術学部】

3　学部提案書の対応について

学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
授業に関する事項 他学科公開科目の設定に関して，現行は講義系の科目が中心であるが，実技系科目の他学科公開授業を増やしてほしい。		○		他学科公開に関しては，各学科でも数を増やせるように検討を進めていますが，実技系科目に関しては，履修対象年次が，３年次から４年次に設定されていることが多く，各分野の専門性の高さから，基礎的な内容を段階的に修得してからでないと，学修効果が見込めない側面があります。また，各学科が保有する高度な専門設備を用いて進行するため，知識だけでなく技能が修得されていることも求められ，履修者の安全管理の徹底，施設のキャパシティ等を含め，自学科の収容定員以上の指導が難しい実態もあります。さらに授業ごとに設定される学修到達目標を達成する観点からも，適正な科目を公開設定することが学部にも求められています。こうした背景から，基礎・基盤となる講義系科目に他学科公開設定を行う学科が多い状況ですが，一部の演習科目や実技系科目に関しては，現在も他学科公開しています。更に芸術学部としても学科横断型の授業設計を推進している側面もあるため，先に回答した「連携型プロジェクト」の履修も視野に入れてみてください。
授業に関する事項 専門分野の海外大学への留学など連携を増やしてほしい。すでに協定を締結中のマインツ美術大学だけでは，映像系等の領域を網羅出来ていない。また資金面等で留学に対する保障を充実してほしい。			○	海外留学における芸術領域の専門分野を持つ大学との連携に関しては，相手先の学事日程や単位互換の検証など，今すぐに協定校を増加させることは困難な状況です。また，芸術学部の現在のカリキュラムの専門性や段階性履修を導入している学科もあることから，通年を通した学修も必要であり，現行のセメスター制（一部通年科目有）の状況下で長期留学した場合，修業年限での卒業が困難になることを考慮しなければなりません。現状ではサマースクール等の短期での留学プログラムや日本大学全体で主催する留学プログラム，日本大学が提携するスタディー・アブロード・ファウンデーション（ＳＡＦ）で決められたプログラムを利用した「認定留学制度」を活用することが現実的です。交換留学や認定留学で留学する場合は，留学期間を２年を上限として修業年数に算入することができます。資金面での留学支援に関しては，日本大学全体または学部が設ける留学制度，海外研修制度等により，海外渡航される学生向けに芸術学部第４種奨学金が設置されており，申請後に採択を受けた場合は，東アジア地域は10万円，東アジア以外の地域では20万円の給付が受けられます。海外留学プログラムの拡充に関しては，学生の要望がどの程度あるか，年間で実施する各種アンケート等の結果を用い，学務委員会等で引き続き検討していきます。
学生交流に関する事項 他学科の展示などの情報をわかりやすく提供してほしい。恒常的に意見交換ができるシステム（場）が欲しい。	○			現在，コロナ禍で停滞していた学部施設の貸出しも平常に戻り，サークル活動や課外活動を通じて，学生の学科を超えた横断的な交流が戻りつつある状況です。学内には限られたスペースではありますが，Ａ棟や東棟の学生ホールなどに共用部分を設定し，なるべくキャンパス内で交流が図れるように工夫しています。他学科の展示などの情報は公式ＷＥＢサイトへ都度掲載し，学内にはポスター等で掲載しています。最近は日藝ポータルサイトなどで学科の企画も学生向けに周知し，様々な学科の学生から参加をいただいています。（デザイン学科のAdobeツール講習会，写真学科CAPA博など）今後も課外活動以外にも学部で提供できる機会（七夕企画やクリスマス企画）の充実を図っていきます。

【芸術学部】

3　学部提案書の対応について

学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
施設設備に関する事項 ・学科所有設備を使う際の取り決めをしてほしい （→他学科設備が使いやすくなるかもしれない） ・連携プロジェクトでいろいろな学科の機材を活用する内容にしてほしい		○		各学科の設備に関しては，授業同様に取り扱いに関しても高度な専門性や管理監督を必要とする側面もあります。また，機材に関しては保有する学科の学生が授業課題等で使用する機会を保証する必要性もあることから，今すぐに貸出し状況を変えることは難しいです。ただし，同じ領域を持つ学科間では施設の相互利用の可能性は検討されておりかつ，先に回答した「連携型プロジェクト」では，学科間の施設設備・機材の活用が具体的に検討されています。
施設設備に関する事項 ・日曜日，祝日も校舎を開けてほしい。 ・Wi-Fiなどを使用する学習があるのでA棟などを開放してほしい。			○	現行の休日入校のルールでは，学生個人の事情で休日入校することは保安上の問題でできません。授業に関連する入校であれば指導教員の申請で入校が可能です。また，サークル活動などで事前に教室の借用手続きを済ませている場合も入校が可能です。事前事後学習の増加やインターネットを使用する学修が増えていることから， A 棟の区画を限定しての解放は，学生の要望数次第ですが，検討できるかもしれません。
その他事項 保健室に行くまでのルートの改善をしてほしい。 今は西棟の中を通ることができず遠回りさせられている。	○			保健室へのルートに関しては，建物の構造上難しいのですが，急な体調不良などの場合は，状況に応じてサポートセンター等の職員が対応しますのでご相談ください。
その他事項 学食のバラエティ・クオリティを良くしてほしい	○			学生食堂のメニューに関しては，日替わりの「学生応援ランチ」の実施など，可能な範囲にてより良い食の提供に努めています。令和 6 年度はベーカリーオーブンを新調し，焼きたてのパンの販売を拡充する予定です。また，学生食堂の席数が限られるため，日替わりキッチンカーも導入しております。

※令和 6 年 4 月 1 日現在の対応内容となっており，今後の状況によって変更する可能性があります。